

大樹の礎

Taiju no Ishizue

President Message

確かな医療知識と豊かな人間性を備えた 医療の真のプロフェッショナルを育成

学長 金子 勝治

国家試験合格と就職のその先 生涯活躍できる人材を育成

新年度が始まりました。新たに大学生活を迎えたり、次学年へと進んだりと、学生諸君はそれぞれ身の引き締まる思いでいることでしょう。

そんな時だからこそ改めて認識してもらいたいのが、医療の真のプロフェッショナルを目指すということです。本学では、知識教育と人間教育の両面から人材育成に努めています。40名程度のクラスごとに教員が指導にあたる担任制は、両面から人材育成を少数精鋭で徹底させる取り組みです。

医療の真のプロフェッショナルとは、「人間の生命を尊重し、相互に助け合い、思いやりの精神を持ち、かつ個人として自立できる人材」です。医療の高度化とともに機械による作業が多くなり、専門知識を備えた人材がより強く求められています。しかし、一方で機械が冷たいイメージを持つことから、医療現場では人としての温もりが果たす役割も増しつつあります。そこ

でカギを握るのは医療従事者の人間性です。患者様はもちろん、チーム医療の仲間となる各医療部門の専門家からも信頼を獲得することが大切になります。

就職先から「専門知識をきちんと習得し、人間性においても素晴らしいのでぜひ採用したい」と評価してもらえるような人材になることを目指し、学生諸君には大いに励んでもらいたいと思います。

文科省の第三者評価で 評価基準に適合と認定 次の評価に向けた節目の年

本学は、医療の真のプロフェッショナルを育成するための単科大学として平成19年に誕生し、約3100人の卒業生たちが全国各地の医療の場で活躍しています。各職場でOBやOGが率先して指導してくれるのも本学の良さであると自負しています。

大学には7年以内に一度、文部科学大臣の認証を受けた機関(認証評

価機関)による第三者評価(認証評価)の受審が義務付けられています。本学も大学設立7年を迎えたため、この第三者評価を受審し、評価基準に適合していると認定されました。したがって、本学にとって今年度は、次の

7年後の受審に向けて新たなスタートを切った大きな節目となるのです。

「学生満足度向上」を目指し さまざまな取り組みに着手

本学が教育機関として重視しているのは、「学生満足度向上」です。その一環として、専門知識の習得に欠かせない「基礎学力を身に付ける」とこと、「学び方を学ぶ」という勉学の基本姿勢を指導する「NIMS(ニムス)学習支援プロジェクト」を4月に立ち上げました。

また、「学生満足度向上」の一環として4月から図書館の開館時間を大幅に見直し、平日・休日8時〜22時の開館としました。教員の質の向上を図るFD(ファカルティ・ディベロップメント



能力開発活動や、職員の人材育成のためのSD(スタッフ・ディベロップメント)活動を活性化させ、より良い「働く人材」の確保にも力を入れていきます。

国際化という点では、学内に国際交流研究センターを設立し、一昨年からスタートしたアメリカ・オレゴン州ポートランドでの海外研修を本年度も実施し、学生諸君にとって国際感覚を身に付ける機会として定着することを目指します。また、学生のみならず教員の海外視察研修を実施するなど、今後は国際化への対応を本格化します。また、本学では、年1回開催している「父母懇談会」を通じて保護者の皆様と直接交流する場を設けています。これは保護者の皆様から生の声をうかがえる貴重な機会です。今年も10月に埼玉県のパレスホテル大宮で開催しますので、より多くのご参加をお待ちしています。

平成
25年度

国家試験を
終えて

知的で、人間性豊かな
看護師を育成したい

看護学科 学科長 小山 英子

看護学科は、開設3年目を迎えました。明るく、知的で人間性豊かな看護師を育てるために、学生の皆さんに対しては今まで以上にきめ細かな関わりを心がけます。

看護は人の生命と向き合う仕事ですから、「誠実さ」、「責任感」、「謙虚さ」、「人の話を聴く力」などが求められます。日々の学習に対してもこれらを決して忘れることなく、地道に、誠実に、努力することが大切です。1年生のうちからコツコツと積み重ねた努力が最終的に成果へとつながります。看護師を目指そうと決めた初心を忘れずに励んでください。

看護に必要な学習内容は膨大ですが、知識や技術の習得と同時に、人間性や倫理観を高める努力も必要です。規則正しい日常生活を送り、学習に集中できる環境を整えていきたいと思います。

また、人の生命を守り、日常生活の援助をする者として、まずは、自分の身の回りのことを自分で行う習慣付けをすることも大切です。保護者の皆様におかれましてはご指導とご支援をお願い申し上げます。

検定試験で得た確かな実績
その勢いで全員の夢を叶えたい

臨床工学科 学科長 平井 紀光

臨床工学科は開設3年目を迎えました。臨床工学科として第1期生となる3年生の皆さんには、いよいよ臨床工学科士国家試験の受験という目標が見えてきたよう

今年度の対策と学生の皆さん。
保護者の皆様に向けてのメッセージ

3年生には、国家試験の予備試験ともいわれる「第2種ME技術実力検定試験」が今年度も9月に実施されます。本学では昨年度までに10名が合格しています。しかも、受験者6300人中100番以内の高得点での合格者が4名もいる快挙でした。この勢いでクラス全員合格の夢を叶えられよう、教員一同頑張っているところです。

臨床工学科士を目指す道は容易なことではありません。4年間の短い時間で医学と工学両方の知識と技術を習得する必要があります。人の命を守るための技術の習得と同時に人格を磨くことも忘れてはなりません。何よりも努力に努力を重ねることが大切なのです。

臨床工学科士は、現代医療の治療分野になくてはならない存在です。求人は何十倍にも及んでいますが、優れた人間性と高度な知識をもって国家試験に合格しなければ目的の就職が果たせません。学生の皆さんと保護者の皆様、大学が一丸となり、夢に向かって進めるよう、ご支援をお願いします。

国家試験は4年間で得た知識の
総決算、臨床実習の経験も重要

理学療法学専攻 専攻長 伊藤 芳保

平成25年度の理学療法士国家試験は、例年になく基礎知識を確認する出題が多いように見受けられました。得点を見込める問題はケアレスミスのないように、確実に得点へと結び付けることが大事です。来年度以降の国家試験対策では、基礎知識のさらなる充実が必要だと考えられます。教員が一方的に知識を提供するのではなく、受け手となる学生の皆さんと双方向

で一致団結しなければ、幅広い領域から出題される国家試験に対応することはできないと考えています。学生の皆さんとの日々の情報交換が必要だと思います。

国家試験は4年間の学習で得た知識の総決算であり、そこで出題される実地問題は臨床実習で学び、経験したことが実際に問われるケースが少なくありません。到底、定期試験のような数日間対策できるようなものではないのです。

学習する習慣を如何にして学生の皆さんが身につけるのか、我々教員は学内実習や演習、模擬試験などで工夫し、思考しています。将来の医療従事者を目指す大切な4年間ですので、保護者の皆様にも学習指導に対するご理解とご協力をお願い申し上げます。

経験豊富な専任教員の
チームワークが強み

作業療法学専攻 専攻長 本田 豊

平成25年度作業療法士国家試験に合格した卒業生を心から祝福したいと思えます。作業療法学専攻の強みは、経験豊富な専任教員のチームワークです。学生本人が誰よりも一番、国家試験に合格したいと思っているはずですので、その気持ちを結果に結び付けられるように、全教員の英知を結集したいと思えます。卒業生が全員、国家試験に合格できるように、また、たった1問で泣くことのないように、現状に甘んずることなく、少しでも精度を高めていく指導を心がけたいと思えます。作業療法学専攻では、国家試験対策の勉強法が確立しています。あとは、学生の皆さんが勉強に集中して効率的に取り組み

新任教員の
紹介



看護学科 教授 館伊 久美子



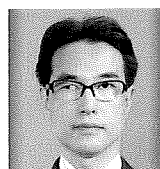
看護学科 講師 土屋 守克



看護学科 助教 程塚 京子



看護学科 助教 太田 淳子



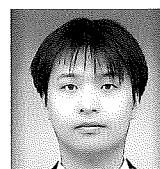
臨床工学科 講師 水島 岩徳



臨床工学科 講師 坂元 英雄



臨床工学科 助教 大矢 哲也
(※平成25年度中の着任)



理学療法学専攻 助教 矢嶋 昌英



作業療法学専攻 助手 嘉成 望



医療・基礎教育科 助教 谷口 億宇



医療・基礎教育科 助教 小川 由香里

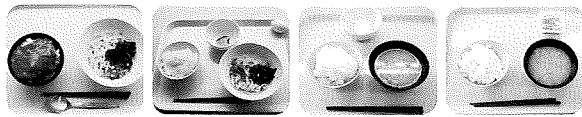
朝食サービスで栄養を取り 健康と学習効果の両面を向上

朝食サービスの様子



朝食を食べないと健康に良くないのはもちろんのこと、脳のエネルギー源として必要なぶどう糖などが不足し、脳がうまく働かず、集中力の散漫やイライラなどにつながります。また、朝食を食べることで脳温度がわずかに上昇し、やる気を出させる効果があるといわれています。朝食を抜けば、こうした脳のウォーミングアップ効果も失ってしまうのです。

そこで、本学では平日毎朝8時30分～9時の間、食堂「カバティーナ」において100～150円で朝食サービスを行い、1人でも多くの学生が朝食をしっかりと食べて講義に出席することを期待しています。



朝カレーセット
(ミニカレー+ミニ
うどん又はそば)

うどんセット
(ごはん・卵+ミニ
うどん又はそば)

豚汁セット
(ごはん+豚汁
+卵)

豚汁セット
(ごはん+豚汁
+納豆)

最近の国家試験は、原理原則の 理解と応用力が試される傾向

るようになることが重要です。そのために作業療法学専攻の教員が全力でサポートする体制を準備しています。新入生の皆さんも努力することはいくらでもあります。やる気になれば何でもできます。悔いのない4年間を過ごせるように頑張りましょう。

また、毎年、父母後援会から国家試験対策に多大なご支援をいただいております。と、厚く御礼申し上げます。今後も国家試験合格に向けて、さまざまな面からご協力をお願い申し上げます。

診療放射線学科 学科長 中谷 儀一郎
診療放射線技師国家試験の最近の傾向は、科目によって難易度などの相違は見られますが、全体的に原理原則を記憶して答えられる問題よりも、原理原則を理解した上で思考させる応用力を問う問題が多く出題されるようになりました。

このため4年生に対しては、臨床実習終了後の夏休みから基礎的学力の充実に力を入れ、10月以降は演習問題を織り交ぜながら基礎的学力で得た知識を活用・考察できるように指導していきます。平成26年度卒業生の国家試験全員合格に向け、教員一丸となって今後とも指導してまいります。

国家試験対策には時間との勝負という側面があり、4年生の1年間で勉強を完成させることはできません。そのため1年生から3年生までの講義を理解することの重要性は大きく、問題演習などを通して教科書やノートを最大限に活用し、基礎学力を深く理解する必要があります。1年生からの日々の成績が大切となりますので、期末試験後に送付しております試験成績結果を注意深く確認していただければと思います。保護者の皆様におかれましても、学生の皆さんの目標を達成させられるように、ご支援をお願い申し上げます。

Interview

徳永千尋教授受賞インタビュー



作業療法学専攻の徳永千尋教授は、2000年1月より東京都小金井市の介護認定審査会委員に参画。同市市政5周年記念に伴い、表彰規定10年以上の勤続により推薦され、「東京都小金井市市政功労者表彰 介護保険」を受賞されました。これは、2010年3月「東京都北区社会福祉功労賞」に続き2回目の受賞となります。

このたびは受賞おめでとうございます。徳永教授が作業療法士を志したきっかけを教えてください。

徳永：ありがとうございます。きっかけは、出身地である熊本県の定時制高校に通っていた際、同級生に看護師を目指す人がいて、医療の道に興味を持ちました。その後、作業療法士という仕事を知り、将来的に人の役に立つ仕事だと思い、志しました。

作業療法士の役割とは何だと思われませんか。

徳永：患者様が自分の力で進んで「作業」できる環境を整える事が、大事な役割だと思っています。そして、患者様がどんな問題を抱えて

いて、どんなことに興味をお持ちなのかを探し、患者様のニーズとマッチングさせながら、QOL(生活の質)を高めるためのお手伝いをします。

『作業』とは、遊びから仕事まで、生活の中の広範囲を含みます。中学・高校の授業の技術家庭、音楽、美術に似ているかもしれません。例えば、絵を描くのが好きな方は寝たきりの患者様に「スケッチをしましょうか」と問いかけると、起き上がろうとし、自ら絵筆やボールペンを持つようになります。人は好きなことには心が動き、体も動かそうとします。

本学の学生に対して、改めてメッセージをお願い致します。

徳永：医療の仕事は、年齢を重ねる人生の経験値を上げるほどに、深まっていくやりがいのある仕事だと思います。

目の前の患者様に向き合う覚悟を持ち、患者様の今後についてしっかり責任を持たなければなりません。その様に接していると、患者様との出会いからたくさん喜びを感じることもあります。そういう意味で、本学の建学の精神である「報恩感謝」という言葉が私は好きです。

その他、医療の道を志す学生の皆さんには伝えたいことがたくさんあるので、これからもサポートしたいと思います。

介護認定審査会とは

申請者が介護保険の給付を受けるのが適当かどうかを、審査・判定する組織

ご卒業187名・ご入学380名、おめでとうございます！

2013 Graduation Ceremony

平成25年度 日本医療科学大学 学位記授与式

3月10日、川越プリンスホテルにおいて、学位記授与式が盛大に行われました。卒業生数は、理学療法学専攻89名、作業療法学専攻28名、診療放射線学科70名の合計187名です。

金子勝治学長は卒業生に対し、「諸君は新たな生活を迎えることに期待と不安を抱えているだろう。しかし、前身となる城西医療技術専門学校を昭和59年に設立して以来、本学の卒業生は、指導的立場や中堅、新進気鋭の医療従事者など、それぞれの役割から全国各地で活躍している。諸君はこうした幾千のOB、OGと固い絆で結ばれている」と激励の言葉を贈りました。新藤宣夫理事長は、「諸君には改めて本学の建学の精神とな

る『報恩感謝』の言葉を贈りたい。この言葉を受け継ぎ、豊かで逞しい心を持って人生を歩んでほしい」と語りました。

卒業生を代表して謝辞を述べた理学療法学専攻の久保大輔さんは、「私たちは医療従事者としての基礎知識を得ましたが、今後はそれをさらに実践で役立つものにしていく覚悟です。そして、誇りと責任感を持って業務に励み、それぞれの職場において本学の名をますます高めに、医療従事者として認めてもらえるように努力していきます」と決意を表明。教職員、保護者の皆様、ご来賓の皆様に見守られ、卒業生は新たな門出を迎え、希望で目を輝かせました。



平成25年度卒業生受賞者

◎理学療法学専攻

学長賞
日本理学療法士協会 優秀賞
全国リハビリテーション学校協会 優秀賞
理学療法科学学会 優秀賞

久保 大輔
石塚 美穂
篠崎 紗輝
山口

◎作業療法学専攻

学長賞
全国リハビリテーション学校協会 優秀賞
埼玉県作業療法士会 会長賞

横澤 美奈
渡辺 沙織
手島 早紀

◎診療放射線学科

学長賞
埼玉県診療放射線技師会 会長賞
埼玉県診療放射線技師会 奨励賞

内田 裕介
齋藤 暢利
高橋 洋平

2014 Entrance Ceremony

平成26年度 日本医療科学大学 入学式

4月3日、川越プリンスホテルにおいて、平成26年度入学式が晴れやかに執り行われ、看護学科88名、臨床工学科45名、理学療法学専攻97名、作業療法学専攻49名、診療放射線学科101名の合計380名が、入学の認証を受けました。

金子勝治学長は、「医療従事者にはそれだけにふさわしい人格や識見、態度が求められる。他人の持たない専門知識を身に付けることは容易ではないが、できない理由を考えるのではなく、どうしてもできなくなるかを考える人間になってほしい」と式辞を述べました。新藤宣夫理事長は、「『学業や臨床実習を通じ、自分の描いていた理想と現実との違いを感じて戸惑うこともあるだろう。しかし、このギャップを埋めることも大事なことである。医療従事者として、人間としてあるべき理想像を描き、それに近づく努力を重ねてほしい』と激励しました。

安田晃父母後援会会長からは、「自らの目標に向かって充実した大学生活を送ってください」とエールをいただきました。新入生代表として登壇した看護学科1年生の太田真理子さんは、「将来、立派な医療従事者になれるよう、また本学の学生として輝かしい足跡を残せるように研鑽と努力を重ねてまいります」と宣誓しました。保護者の皆様の温かい眼差しに見守られ、新入生は新たな一歩を踏み出しました。

を埋めることも大事なことである。医療従事者として、人間としてあるべき理想像を描き、それに近づく努力を重ねてほしい」と激励しました。

安田晃父母後援会会長からは、「自らの目標に向かって充実した大学生活を送ってください」とエールをいただきました。新入生代表として登壇した看護学科1年生の太田真理子さんは、「将来、立派な医療従事者になれるよう、また本学の学生として輝かしい足跡を残せるように研鑽と努力を重ねてまいります」と宣誓しました。保護者の皆様の温かい眼差しに見守られ、新入生は新たな一歩を踏み出しました。

